

欧米経済史（坂出）

2006.6.13

#8 ケネディ政権（1960年代前半）

テキスト 第6章 大西洋共同体の枠組みに対するド＝ゴールの挑戦1960-70年(p.55-76) より

アメリカの戦略

欧州統合

(1)FDR政権の戦後構想 (BWプラン)

(2)マーシャルプラン

(3)X論文とケナン封じ込め構想

ECSC

(4)アチソン・ニッチィとNSC68路線

EPU

(5)JFダレスのニュールック戦略

EDC スパーク報告 (ユーラトム・EEC)

スエズ危機・スプートニクショック・EDC流産→英仏独ベネルクスの混乱

アメリカの欧州統合戦略第二の転換—ボウイ構想からNSAM40へ

アメリカの欧州統合戦略—第二の転換前夜

- イギリス マクミラン政権 スエズ危機後の英帝国再編
- フランス ドゴール政権 「三頭政治」論
- 西ドイツ アデナウアー政権 第二次ベルリン危機にいたる核危機
- 二つの課題
 - 安全保障—核管理問題—仏独の核抑止力要求—イギリス核抑止力の位置
 - 経済—欧州域内・米欧間の通商交渉
 - 焦点はイギリスのEEC加盟問題

今週の講義の概要

(1) NATO核武装計画と英米特殊関係

(2) スカイボルト危機とNSAM40

(1) NSAM40とケネディ政権の対欧政策

(2) マクナマラ・ドクトリンとスカイボルト開発中止

(3) ケネディ「大構想」とナツソー協定

(1) 対立する二つの構想からナツソー会談へ

(2) 「1月危機」と米独協調関係

[1] NATO核武装計画と英米特殊関係

- スエズ危機の二つの教訓
 1. 独自核抑止力建設—スエズ危機時のソ連からの核恫喝
 2. 英米特殊関係の重要性
- NATO核武装計画—ソ連の大陸間弾道ミサイルに対抗するために、NATO同盟国内に中距離ミサイル基地を建設

[1] NATO核武装計画と英米特殊関係

- 1957 英米核協力関係の再開（イギリスの中距離核ミサイル受け入れ）
- cf. 1957秋 ケナンBBCリリース講義
- 1960.3 英米スカイボルト協定

米から英に、英核抑止力の中枢V型爆撃機搭載可能な中距離弾道ミサイルを供与する。

[1] NATO核武装計画と英米特殊関係

- ボーウィ構想—中距離ミサイルで武装した水上艦艇によるNATO核艦隊建設
- NATO核武装計画をめぐる米ソ間交渉の難点である西ドイツ領域内への中距離核ミサイル配備問題を回避しうる。

[2] スカイボルト危機のNSAM40

(1) NSAM40とケネディ政権の対欧政策

- National Security Action Memorandum 40

1. 核管理—アメリカの核戦力の主要部分が他国の拒否権にさらされない+欧州に配備される如何なる核戦力もアメリカの拒否権に服す (西側核戦力をアメリカ政府の下に一元管理)

2. イギリス核戦力「長期的観点に立つとイギリスが核抑止事業からの撤退を決断することが望ましい」

[2] スカイボルト危機のNSAM40

(1) NSAM40とケネディ政権の対欧政策

- National Security Action Memorandum 40
(1961.4.20)

3. イギリスのEEC加盟—イギリスが英米特殊関係にあらぬ期待をもってEECの枠外にとどまる傾向は排除する。

「大構想」 ①イギリスのEEC加盟による経済拡大②西側核のアメリカによる一元管理→英米特殊関係の終焉

(2) マクナマラ＝ドクトリンとスカイボルト開発中止

● NATOアテネ会議(1962.5)マクナマラ国防長官

1. 米ソ「ミサイル・ギャップ」は存在せず。

2. 「独立・小規模の核戦力」は核戦争の危険性を
高めるだけで危険

● 仏独の反発

1. ドゴールー独自核建設

2. アデナウアー—NATO核武装通じ核発射権への
接近志向する →パリ・ボン枢軸へ

[3]ケネディ「大構想」とナツソー協定

(1) 対立する二つの構想からナツソー会談へ

- ケネディ構想×ドゴール構想

1. 英独自核抑止力の危険性—英EEC加盟の場合、英仏独の核協力が欧州独自の核防衛体制に結びつかないか？

2. 1962.11.7 米政府スカイボルト開発中止決定

→米英ナツソー会談での善後策協議へ

[3]ケネディ「大構想」とナッソー協定

(2) ナッソー協定によるイギリス核戦力のNATO配属

- 1962.12.19-20 米英ナッソー会談
 1. アメリカはポラリスミサイル（潜水艦発射ミサイル）をイギリスに供与する。
 2. その条件として、イギリスはポラリス核戦力をNATO多角的核戦力に配備する。
 3. フランスにも同じ条件でポラリスミサイル供与を申し入れる。

[3]ケネディ「大構想」とナッソー協定

(3) ドゴール記者会見と「一月危機」

- 1963.1.14 ドゴール記者会見
- ナッソー協定および多角的核戦力へのフランス参加拒否
- 1963.1.28-29 EEC閣僚会議—仏除く5カ国はイギリスのEEC加盟に合意したものの仏は拒否→イギリスのEEC加盟協議の無期延期を決定
- ドイツがアメリカとフランスのどちらを選ぶか？

1. Introduction - 長期政権の後継首班

アデナウアー政権の1963年「1月危機」

大西洋同盟の
枠内の独仏協調

アデナウアー
首相

独仏協力条約
(エリゼ条約)

シュレーダー
外相

エアハルト
経済相

シュトラウス
国防相

[3]ケネディ「大構想」とナッソー協定

(4) 米独協調

- 1963.5.31 ドイツ議会の独仏協力条約批准前文
 1. 独仏協力条約はNATO枠内
 2. 米欧間のパートナーシップの維持
 3. イギリスのEEC加盟推進
- 2. 1963.10.16エアハルト政権成立（シュレーダー外相）→米英独協調とフランス孤立

残された課題1963-67

- フランスのNATO軍事機構離脱問題
- ドイツ駐留軍費問題
- イギリスのEEC加盟交渉（第二次）

来週以降の予定

- 6月20日（火） ジョンソン政権 1960年代後半
- テキスト 第7章 大西洋共同体の枠組みに対する欧州の経済的挑戦1945-72年(p.77-90)
- 過去の講義のスライド 経済学部HP→教員紹介→坂出健